

だれでも どこでも いつでも 楽しめる 音楽療法



第28回 全国セミナー「仙台」

日時 2025年8月2日(土)～4日(月)

会場 トークネットホール仙台

宮城県仙台市青葉区桜ケ岡公園4番1号

主催

NPO法人 日本ミュージック・ケア協会

共催

加佐ノ岬倶楽部音楽療法研究所

東北・北海道ブロックミュージック・ケア(合同)研究会

後援(申請中)

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会

公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会

認定特定非営利活動法人 おもちゃの図書館全国連絡会

日本デイクア学会

公益社団法人 日本認知症グループホーム協会

宮城県／仙台市

一般社団法人 宮城県保育協議会

社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会

社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会

伝える想い 繋がる絆
～出逢いが育む 豊かな未来～

imca



日本ミュージック・ケア協会

団体所在地 及び 連絡先

NPO法人 日本ミュージック・ケア協会

〒922-0554 石川県加賀市橋立町ふ23 TEL / FAX 0761-75-2917

<https://www.music-care.net> E-mail info@music-care.net

伝える想い 繋がる絆
～出逢いが育む 豊かな未来～

第28回 全国セミナー「仙台」

日時 2025年8月2日(土)～4日(月)

会場 トークネットホール仙台

宮城県仙台市青葉区桜ケ岡公園4番1号

大会長:松本 鈴子

日本ミュージック・ケア協会理事 認定指導者



1日目 8月2日(土)

2日目 8月3日(日)

3日目 8月4日(月)

9:00	受付
10:00	開会式
11:00	★ミュージック・ケア 理論/実技Ⅰ 『ミュージック・ケアの理論は 出会いの中で!』 宮本 啓子
12:00	昼食
13:00	ワークショップⅠ
14:00	1 重度障がい 2 高齢者 3 親子:一般子育て 4 親子:療育支援 5 放課後等デイサービス 6 介護予防
15:00	ワークショップⅡ
16:00	1 知的障がい児 2 知的障がい入所 3 知的障がい在宅 4 自閉症スペクトラム 5 精神障がい 6 視覚・聴覚障がい
17:00	総会
18:00	
19:00	仙台の夜を お楽しみください
20:00	
21:00	

9:00	★ポスター発表 論文研究委員会 【事例報告】
10:00	★ミュージック・ケア 理論/実技Ⅱ 『自身の心と身体の為の ミュージック・ケア!』 宮本 啓子・吉田茂樹・下村泰斗
11:00	昼食
12:00	★基調講演 松本 鈴子 『伝える想い 繋がる絆 ～出逢いが育む 豊かな未来～』
13:00	市民公開講座 ★ミュージック・ケア 理論/実技 宮本 啓子 『だれでもどこでも いつでも 楽しめる ミュージック・ケア』
14:00	
15:00	★定期講演 佐藤 俊一 『感応する身体と私たち …身体が他者との相互性の源である』
16:00	
17:00	
18:00	
19:00	レセプション 懇親・交流会 別途申込必要
20:00	
21:00	

9:00	★全体発表 【研究発表】 コメンテーター 西島 千尋・宮本 啓子
10:00	
11:00	★講演 松本 健一 『障碍とは何か ～インクルージョンを介してMCのなすべきことを考える～』
12:00	昼食
13:00	★ミュージック・ケア たしかめあい ふかめあい 『だれでもどこでも いつでも 楽しめるミュージック・ケア』 ミュージック・ケア理論/実技/応用を楽しむ
14:00	閉会式
15:00	

●日程および内容は変更になる場合があります



お 誘 い

「キラキラ サラサラ」 人は宇宙のひとかけらとなって生きていく

NPO法人日本ミュージック・ケア協会
理事長 宮本啓子

第28回日本ミュージック・ケア協会全国セミナーをやっとこの仙台で開催することができます。東日本大震災から14年が経ちました。震災後の4月にミュージック・ケア協会の会員と現地を訪問させていただきました。悲惨な状況でした。避難所となっている体育館には、人がたくさんいるにもかかわらず、シーンと静まり返っている状態を思い起こされます。まだまだ、復興は完全ではないと思いますが、全国セミナーを開催できるまで元気になり、仙台に集まることができるようになったこと、心から嬉しく思います。

ミュージック・ケアは、故加賀谷哲郎先生が開発したメソッドを基本に、その方法と理論を作り上げてきました。この地をミュージック・ケア協会として大切に思うのは、私と一緒に故加賀谷哲郎先生から音楽療法を学び、40年前に加賀谷先生没後開催した磁場の会第2回夏期学校をこの仙台で開催し繋いでくれた、齋藤福治先生が奥様と重度の障がいを持っていた娘さんと活動していた町だからです。いろいろな人の心に齋藤先生の面影が残されていると思います。

ミュージック・ケアは音楽の特性を活用して関係性の発見と改善を行い、自らが生きようとする力、成長しようとする力を回復・醸成することを目的としています。結果、発達支援・機能回復支援・言葉の誘発・認知機能の支援などはもちろん、重症心身障がい・発達障がい・認知症予防・フレイル予防など多方面のアプローチが可能です。そこには奇跡のような効果も見ることが多々あり、裏づけとなる理論も整理されてきました。

ミュージック・ケアは音楽の力を活用し「あるがまま・共にいること・生きること」「ダメとは言わない・無理やりさせない・したくなるまで待つ」などかかわり方を大切にすることで、安心できる関係性と場を醸し出し、「キラキラ サラサラ」というメソッドのように、人は、宇宙のひとかけらとなって生命を繋いでいくものであり、人間本来の生命力を芽吹かせることだと考えています。

福祉や教育や保育や介護等の命に係わる現場の中で、ミュージック・ケアを学び実践していただけることを願っています。

多くの皆様のご参加をお待ちいたしています。



1日目 8月2日(土)

開会式 10:00~

ミュージック・ケア 理論／実技 I ——— 10:15~12:30

『ミュージック・ケアの理論は出会いの中で!』

【理論】① だれでも どこでも いつでも 同じステージで楽しめる!
人は集団の中でこそ成長する

② あるがまま 共にいること 生きること
かかわり方の基本。安心のできる関係性の発見と場

③ 技術じゃないよ 心だよ
音楽技術を学ぶところではありません。心がワクワクするので

④ ダメとは言わない 無理やりさせない したくなるまで待つ
自ら生きようとする力、成長しようとする力を醸成・回復する

⑤ そして、表現愛!
人間の心は身体に現れる!

⑥ さあ! 基本曲を学びましょう! 楽しみましょう!

【実技】ミュージック・ケアは音楽を鑑賞するための道具も使うよ!

宮本 啓子 日本ミュージック・ケア協会理事長
日本音楽療法学会認定音楽療法士
同学会 評議員／信越・北陸支部副支部長

1984年より加賀谷式集団音楽療法全国夏期セミナー実技・理論講師を務める。1996年に宮本啓子音楽療法研究所(現:加佐ノ岬倶楽部音楽療法研究所)を設立。1997年に日本ミュージック・ケア協会を設立。以降、毎年全国セミナーを開催。2000年より台湾にてミュージック・ケアの普及活動に努める。2007年より隔年ごとに台湾全国セミナーを開催。2004年10月と2006年2月、コロラド州立大学にて神経学的音楽療法を学ぶ。2021年第21回日本音楽療法学会学術大会にて大会長を務める。

ワークショップ I ——— 14:00~15:30

日本ミュージック・ケア協会 認定指導者

① 重度障がい

加藤 善之 元福祉施設職員

【内容】遷延性意識障がい者の自宅での個別セッションにおける、進め方、かかわり方、家族支援などを紹介します。

② 高齢者

佐伯 美紀 大洲市養護老人ホーム清和園非常勤

【内容】養護老人ホームやデイサービスを利用されているような認知症の方を含む高齢者の集団セッションを想定しています。無理せず楽しみながら身体を動かしていただき、ミュージック・ケアで十分機能訓練や脳トレ・口腔ケアにもつながることをお伝えできたらと思います。

③ 親子:一般子育て

北川 宜子 発達相談員

【内容】子育て支援センターに来る未就園児親子を想定して、親子の集団セッションの進め方、安心できる環境の整え方、発達援助、親子での楽しみ方などを紹介します。また親御さんに伝えたい子どもへの関わり方などをお話したいと思います。

④ 親子:療育支援

林 多見子 筑波こどものこころクリニック音楽療法士

【内容】発達障がい児に対して、非薬物治療の一つとしてミュージック・ケア(音楽療法)を行っているクリニック。そんなクリニックでの親子セッションを実際に体験していただきながら、小集団のセッションの進め方や使用しているミュージック・ケアの基本曲の使い方を紹介します。

⑤ 放課後等デイサービス

東田 和子 放課後等デイサービスぽっ歩代表

【内容】放課後等デイサービスに通所する児童生徒の安心、安全、探索の基地として日常生活におけるミュージック・ケアの在り方。限られた時間内で行うプログラムの立て方や実践方法を一緒に考えましょう。

⑥ 介護予防

前田 真理 南大阪ミュージック・ケア研究会代表

【内容】介護予防講座では“楽しく参加して貰うこと”を一番考えています。無理せず身体を動かしてみんなで笑い合う。成功体験を経験して自信をつけて貰う。一日中、誰とも喋ることがなかった方もまわりと繋がって交友関係が広がる。最後には「楽しかった〜」と笑顔で帰っていかれる。そんなひと時をミュージック・ケアでお届けできたらと思います。

ワークショップⅡ

16:00~17:30

日本ミュージック・ケア協会 認定指導者

1 知的障がい児

笠島 真須美 元特別支援学校教諭

【内容】個性豊かな(異年齢、さまざまな障がいetc)子ども達が一緒に一つのことに取り組めるためには、一人一人が「わかる」「できる」「たのしい」ことが大事なのではないでしょうか。そして一生懸命な姿を皆に認められることが、次への力になると思っています。一人一人に目を向けながらも集団としての一体感を作りたいと悩んでいる実践の一部をお伝えし、皆さんと悩みを共有できたらと考えています。

2 知的障がい入所

千葉 浩子 知的障害者支援施設中台育心園 支援員

【内容】「模擬演奏」は、エアギターを楽しむように、エアオーケストラで音楽を表現し、積極的に鑑賞する集団活動です。音源の曲に合わせて自由に演奏します。セッションに没入していくと、奏者同士が合わせ合い、それぞれの存在を認め合い、繋がり合っていきます。加賀谷式集団音楽療法を提唱された故加賀谷哲郎先生が「大人の施設ですからこのような活動を取り入れてみては？」とご提案下さったという演奏形態です。没入感が味わえるかどうか体験してみませんか？

3 知的障がい在宅

小松 睦 社会福祉士

【内容】対象者のAさんは、通所作業所職員への不信感から通所できなくなり、自宅からも出ることができなくなって2年が経過していたダウン症の成人女性です。自宅居室にて母親と一緒にセッションを重ねていくうちに対象者が徐々に心を開き、生活介護事業所へ通所できるようになるまでの関わり方や楽曲の利用法について紹介します。

4 自閉症スペクトラム

岩城美喜江 高知ミュージック・ケア研究会代表

【内容】対象者の方が安心して参加できるセッションの進め方や関わり方、楽器の工夫などを紹介します。

5 精神障がい

下村 泰斗 精神科医、音楽療法士、ピアニスト

【内容】精神障がいに限らずどんな障がいでも、またその家族も、そして私たちも、壁にぶちあたったとき、生きづらさを感じたときに、いろいろな感情の状態になります。負の感情の時は、しばしば孤立感も伴います。そんな人達とミュージック・ケアを通して関わるときに、音楽でその心によりそうにはどうしたらよいのか、みなさんと確かめ合う時間を共有したいと思います。言葉にならない思いがあるから音楽は存在しているのだと思います。

6 視覚・聴覚障がい

宮川 深雪 特定非営利活動法人小さな種・こころ管理者

【内容】光道園では視力のほか聴力や知的、肢体など重複した障がい者の方とかかわってきました。その方々の暮らしぶりや障がいに応じた様々なコミュニケーション方法をご紹介します。どうしたら相手の方とより繋がっていけるのか、経験したことをお伝えします。

総会 17:45~18:15

2日目 8月3日(日)

ポスター発表

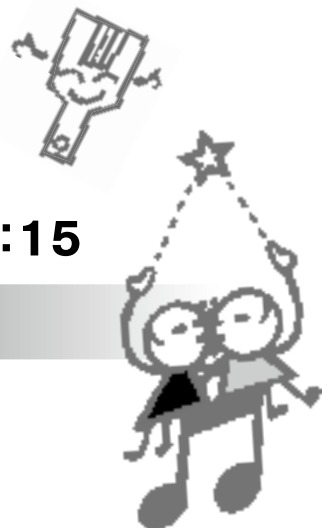
9:15~10:15

【事例報告】

論文研究委員会 日本ミュージック・ケア協会委員会

事例をポスター(模造紙1枚)にまとめます。掲示したポスターの前で事例報告(発表)します。

発表者:日本ミュージック・ケア協会会員-論文応募者



ミュージック・ケア 理論／実技 II ——— 10:30～12:15



『自身の心と身体の為のミュージック・ケア!』



① 股関節手術後の私の心と身体

宮本啓子

② 術後のフィジカルケアとしてのミュージック・ケア

吉田茂樹

③ 術後のメンタルケアとしてのミュージック・ケア

下村泰斗

宮本 啓子

日本ミュージック・ケア協会理事長
日本音楽療法学会認定音楽療法士
同学会 評議員／信越・北陸支部副支部長

市民公開講座

基調講演 ——— 13:15～14:45

『伝える想い 繋がる絆 ～出逢いが育む 豊かな未来～』

松本 鈴子

大会長：日本ミュージック・ケア協会理事 認定指導者
日本音楽療法学会認定音楽療法士、筑波こどものころクリニック音楽療法士

東日本大震災から続けてきた支援と大勢の方との出逢い、繋がってきた絆を語ります。
そして、ミュージック・ケアの実技を楽しみたいと思います。



ミュージック・ケア 理論／実技 ——— 15:15～16:45

『だれでも どこでも いつでも 楽しめる ミュージック・ケア』

宮本 啓子

日本ミュージック・ケア協会理事長
日本音楽療法学会認定音楽療法士、同学会 評議員／信越・北陸支部副支部長



定期講演 ——— 17:00～18:30



『感応する身体と私たち…身体が他者との相互性の源である』

佐藤 俊一 NPO法人スピリチュアルケア研究会ちば 理事長、日本ソーシャルワーク学会 理事

約30年に亘って大学においてソーシャルワーカーを主として、対人支援職の「人にかかわる力」を身につける教育と研究に従事。現在は、退職して実践力を向上させるための研修として、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、臨床心理士、看護職などの対人支援職のグループスーパービジョン、グループ臨床を行っています。その学問的な基盤は現象学であり、大切にしていることはスピリチュアリティ、目指すことは生の覚醒にあります。

私たちにとって身体は、最も身近なものであり、「私たちは身体である」と言うこともできます。しかし、このように表現すると異和感があるかもしれません。日々の生活の中で身体を意識することは限られているからです。外出する前に男性なら髭を剃ったり、整髪をする。女性ならば化粧をするときに、顔を意識して見つめます。医学の視点からすると、皮膚の手入れをしていることになるのですが、人間だけの特性のようです。

事故や病気によって身体が自由に動かせなくなると、動かせない手や足を「対象」として見ます。今まで私と一体になっていたものが、異物のように感じます。身近にあったものと距離が生まれ、自分のものなのに自分のものではなくなるような感覚です。肉体の欠損や麻痺が起こっているだけでなく、まるで私のありようが変わってしまったように感じられるのです。それまでの身体の貢献がわかり、「私たちは身体である」ことに気づかされます。

私たちは、あたりまえのように身体を使って、他者と接しています。前記のような不自由な身体になると、人と接すること、会話することに抵抗を感じる場合があります。ことばを普通に話せたとしても、相手が私をどのように受けとめくれるかが気になるのです。身体が他者との相互性を支えてくれていることがわかるのですが、普段は気づけません。身体と私たちの関係を問い直すことで、身体の「なぜ」を発見していきましょう。そのことは、他者との共同の中で行うミュージック・ケアの実践にもつながっています。

レセプション 19:00~20:30 懇親・交流会

別途申込必要

3日目 8月4日(月)

全体発表

9:15~10:30

【研究発表】

コメンテーター

西島 千尋 金沢大学人間社会研究域 講師

富山県生まれ 博士(学術)

主著に『クラシック音楽は、なぜ「鑑賞」されるのか—近代日本と西洋音楽の受容』(新曜社、2010)、共著に『学校音楽文化論：人・モノ・制度の諸相からコンテクストを探る』(東信堂、2024)や『よくわかる音楽教育学』(ミネルヴァ書房、2023)、共訳に『ミュージッキング—音楽は「行為」である』(クリストファー・スモール著、水声社、2011)などがある。2021年に上梓された『音楽の未明からの思考—ミュージッキングを超えて』(アルテスパブリッシング、2021)ではフィールドワーク調査をもとに音楽療法についてまとめている。2025年にはミュージック・ケアについての単著『ケアの現場で音楽する(仮)』が刊行予定。

宮本 啓子 日本ミュージック・ケア協会理事長
日本音楽療法学会認定音楽療法士、同学会 評議員／信越・北陸支部副支部長

講演

10:45~12:15

『障碍とは何か —インクルージョンを介してMCのなすべきことを考える—』

松本 健一 福井大学 客員教授(名誉教授)

昭和30年生まれ。昭和56年から福井大学に勤務。

専門は、教師教育・発達臨床心理学の分野。

令和6年まで福井大学理事副学長を務め、令和7年度より客員教授(名誉教授)。

現在、学校の抱える課題を学校で同僚と共に解決を目指す教職大学院にて、学校づくりの教育研究活動に勤しんでいる。

ミュージック・ケア たしかめあい ふかめあい — 13:15~14:45

『だれでも どこでも いつでも 楽しめる ミュージック・ケア』

ミュージック・ケア理論／実技／応用を楽しむ

宮本 啓子 日本ミュージック・ケア協会理事長 他、日本ミュージック・ケア協会 認定指導者



閉会式 14:45~15:00



だれでも どこでも いつでも 楽しめる 音楽療法



ミュージック・ケアとは

情緒の安定と発達、身体的機能の維持改善の為に必要な刺激や運動にあわせて、考案されたメソッドを使って行われる音楽療法の一つである。この方法は故加賀谷哲郎先生（日本音楽療法協会を設立・1983年没）が考案されたメソッドを基本に、その方法と理論を宮本啓子と日本ミュージック・ケア協会が体系化したものである

ミュージック・ケアの定義

音楽の特性の一部を利用して、その人がその人らしく生きるための援助をすることであり、子どもの場合はその子どもの持っている力を最大限に発揮させ、発達の援助を行うことである

ミュージック・ケアのねらい

音楽の特性を生かして、対象者の心身に快い刺激を与え、対人的な関係の質を向上させ、情緒の回復や安定を図る。さらに、運動感覚や知的機能の改善を促し、対象者の心身と生活に好ましい変化を与える

ミュージック・ケアの主な効果

関係性の発見と改善、コミュニケーション、情緒の安定、不安行動の軽減、自己コントロール、身体機能の促進、発達の促進、リラクゼーション、生きがい、集団参加の促進、注意集中力、リハビリ、介護予防、フレイル予防 等

あなたも実践できます！ [参加対象者]

- 老人保健施設、特別養護老人ホーム、デイサービス等の老人福祉施設職員
- 知的障がい・自閉症・言語障がい・脳性マヒ等の児童・成人福祉施設職員
- 特別支援学校教員、特殊教育教員、幼稚園教諭、保育士等の教育関係職員
- 理学療法士、作業療法士、医師、看護師、保健師等の医療関係職員
- 音楽指導者、音楽療法士等の音楽関係者
- その他、ミュージック・ケアに興味のある方（本人、家族、ボランティア活動希望等）

参加申し込みは ホームページ（下記QRコード）よりお願いいたします

- ホームページからお申し込みください
- 昼食・レセプションの有無をご回答ください
- ワークショップⅠ・Ⅱの参加希望会場をご回答ください
- 1日参加ないし2日参加の希望者は参加日をご回答ください

◎ 申込期限 7月21日(月) 23:59 まで 早割 6月30日(月) 23:59 まで

◎ 振込先 郵便局

口座番号：00770-2-75467

口座名義：日本ミュージック・ケア協会 全国セミナー

◎ キャンセル・返金について

- 7月21日(月)までは、手数料2,000円＋振込手数料を引いて返金いたします
- 7月22日(火)からは、返金できません。ご了承ください

注意事項

- ◇ 直接会場への問い合わせはご遠慮ください
- ◇ 振込先を間違えないよう、充分ご注意ください
- ◇ 申込後1週間以内に入金の確認ができない場合は、キャンセルとさせていただきます
- ◇ やむを得ない事情で送金が遅れる場合は、事前にご連絡ください
- ◇ 宿泊は各自で手配をお願いします
- ◇ 会場内に飲食物の持ち込みは可能ですが、ゴミは各自でお持ち帰りください
- ◇ 持ち込みの飲食物は水気のある物（冷麺など）はご遠慮ください
- ◇ 熱中症対策として、飲料（蓋が閉まる物）を各自でご用意ください
- ◇ ホームページからの参加申込が難しい方は、日本ミュージック・ケア協会事務局にご連絡ください
申込の対応をさせていただきます
- ◇ 質問等お問い合わせは、日本ミュージック・ケア協会「加佐ノ岬倶楽部音楽療法研究所」までお願いします

参加費

すべて税込み価格です

【3日間参加費】

6月30日(月) までに申し込み	一般	19,000円
	会員	17,000円

7月1日(火) からの申し込み	一般	21,000円
	会員	19,000円

【1日参加費】 9,000円

レセプション参加費 5,000円

弁当(昼食のみ) 1食 1,000円



お申し込み
問い合わせ先

NPO法人
日本ミュージック・ケア協会
加佐ノ岬倶楽部音楽療法研究所

〒922-0554
石川県加賀市橋立町ふ23
TEL/FAX 0761-75-2917
https://www.music-care.net
E-mail info@music-care.net

